

平成27年度

## 自己評価報告書

評価期間 自:平成27年4月 1日  
至:平成28年3月31日

平成28年 5月19日

専門学校 日本デザイナー学院



本報告書は平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局の作成『専修学校における学校評価ガイドライン』及び、特定非営利活動法人私立専門学校評価研究機構の作成『第三者評価システムの概要Ver 4.0』に準拠し実施した。

#### 自己評価委員会

委員長	野口 朝夫	(校長)
委員	村中 凱	(主任)
	鈴木 真紀夫	(主任)
	金子 博亘	(主任)
事務局	慶原 伸浩	(事務局長)
	齋 英智	(教務課長)
	宮部 覚	(学生課キャリアセンター)



## 目 次

1. 学校の教育目標 .....	P3
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 …	P3
3. 点検項目の評価結果 .....	P3～8
(1)教育理念 .....	P3
(2)学校運営 .....	P4
(3)教育活動 .....	P4・5
(4)教育成果 .....	P5
(5)学生支援 .....	P6
(6)施設整備 .....	P6
(7)学生募集 .....	P7
(8)財務 .....	P7
(9)法令順守 .....	P7・8
(10)社会貢献 .....	P8
(11)国際交流 .....	P8
4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 .....	P9
(1)教育目標 .....	P9
(2)財務評価 .....	P9
(3)一般的評価 .....	P9

## 1. 学校の教育目的

専門学校日本デザイナー学院は、高度に進歩する産業社会において生活と文化に携わる有能なクリエイターを養成することを目的とし、その職能上必要とされる技能を履修させ、教養を積み、同時に人間形成に努め、社会人としての自覚と責任をもつ人材の育成を使命とする。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 課題解決能力やコミュニケーション能力を養うことを目的とした学生活動に対する支援。
- 2) クリエイティブ業界と学生のニーズを反映しバランスのとれたカリキュラム編成。

## 3. 自己点検・評価項目の結果

### (1) 教育理念に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
1-1)	教育理念・教育目標は示されているか	4	3	2	1
1-2)	学院の特色は示されているか	4	3	2	1
1-3)	学院の将来構想は示されているか	4	3	2	1
1-4)	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	4	3	2	1
1-5)	各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

### ①課題

多様化及びボーダレス化が激しい業界において、より実践的・専門的なカリキュラムを構築すること。

### ②今後の改善方策

変化が激しく多様化する業界に対応し、より実践的・専門的なカリキュラム編成のため、企業との連携を強化する。

### ③特記事項

職能上必要なスキルを習得させながら人間形成にも努め、社会人として自立できる人間力の習得を教育理念達成の目標とする。

(2) 学校運営に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
2-1)	運営方針は定められているか	4	3	2	1
2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
2-3)	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	4	3	2	1
2-4)	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
2-5)	意思決定システムは確立されているか	4	3	2	1
2-6)	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
2-7)	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
2-8)	情報システム等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

①課題

[ 学校運営についてより周知徹底する。 ]

②今後の改善方策

[ 学校運営についてより情報を提供する。 ]

③特記事項

[ 理事会・評議員会・職員総会・講師会を行い、方針や事業計画の周知徹底を計り、効率的な学校運営を行っている。 ]

(3) 教育活動に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
3-1)	教育理念等に沿った教育課程に編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
3-2)	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	4	3	2	1
3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが反映されているか	4	3	2	1
3-5)	定期的カリキュラムの見直しはなされているか	4	3	2	1
3-6)	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
3-7)	成績評価の基準は明確になっているか	4	3	2	1
3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
3-9)	授業評価は実施されているか	4	3	2	1
3-10)	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	4	3	2	1
3-11)	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	4	3	2	1
3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

①課題

[ 基礎教育と先端技術教育のバランスを考え、カリキュラムに反映する。 ]

②今後の改善方策

[ ①授業評価を参考に授業内容の更なる見直しを行う。  
②企業と連携しながらカリキュラムの改善を行う。 ]

③特記事項

[ 企業の考えを積極的に取り入れ、企業参加の公開プレゼンテーションを行った。 ]

(4) 教育成果に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
4-1)	就職率を向上させるための施策は図られているか	4	3	2	1
4-2)	資格取得の向上が図られているか	4	3	2	1
4-3)	退学者を減らすための施策は図られているか	4	3	2	1
4-4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
4-5)	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

①課題

[ 就職活動の早期化への対応と就職意識をより向上させること。 ]

②今後の改善方策

[ ①就職率向上のため入学時より個別指導プランを作成し、カウンセリングを充実させる。  
②就職意識向上のため、企業説明会や会社見学会等のイベントを増やす。  
③校友会への協力や支援を一層充実させ、卒業生の活躍をより把握する。 ]

③特記事項

[ 多様化する進路希望に対応する為、年間を通して定期的に学生全員を対象とした個別相談会を実施している。 ]



(5) 学生支援に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
5-1)	就職に関する支援体制は整っているか	4	3	2	1
5-2)	学生相談などの支援体制はどうか	4	3	2	1
5-3)	学生への奨学金等の経済的支援はどうか	4	3	2	1
5-4)	学生の健康管理はどうか	4	3	2	1
5-5)	課外活動に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-6)	学生寮等の支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-7)	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
5-8)	卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
5-9)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
5-10)	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

①課題

[ 社会構造の激しい変化に伴い、多様化する学生を取り巻く環境の変化への対応。 ]

②今後の改善方策

[ ①担任、講師と情報共有を密に行う。  
②保護者と連絡を密に取り早期に対応を行う。 ]

③特記事項

[ ①教職員を対象に定期的に心の問題を抱えた学生への対応をテーマとした研修会を実施している。  
②卒業生支援として、卒業生の作品展などの情報を学校のホームページや校友会のフェイスブックなどで提供を行っている。 ]

(6) 施設設備に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
6-1)	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	4	3	2	1
6-2)	学内外の実習設備、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
6-3)	防災体制は整っているか	4	3	2	1

①課題

[ 企業で使用されている機材と学内機材とのバランス。 ]

②今後の改善方策

[ 進化する技術や機材を見据えながら、企業で使用されている機材に対応できる技術の習得を支援をすること。 ]

③特記事項

[ 災害におけるマニュアルを作成しており、飲料水・食糧なども備蓄している。 ]

(7) 学生募集と受け入れに関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
7-1)	学生募集活動は適正か	④	3	2	1
7-2)	学生募集に教育成果は反映されているか	4	③	2	1
7-3)	入学選考の時期・基準・方法は適正か	④	3	2	1
7-4)	納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①課題

[ 広い市場への募集活動と教育成果のアピールを充実させる。 ]

②今後の改善方策

[ 新たな入学者層の開拓や新学科の開設。 ]

③特記事項

[ 高齢者や留学生を対象とした試みを展開している。 ]

(8) 財務に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
8-1)	中長期的に財務基盤はどうか	4	③	2	1
8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当か	4	③	2	1
8-3)	会計監査は適正に行われているか	④	3	2	1
8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

①課題

[ 適正に行われていると判断している。 ]

②今後の改善方策

[ 現状どおり継続していく。 ]

③特記事項

[ 健全な財務状況を維持している。 ]

(9) 法令順守に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			
9-1)	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
9-2)	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
9-3)	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	4	③	2	1
9-4)	自己評価結果を公表しているか	4	③	2	1

①課題

[ 第三者評価による点検を検討。 ]

②今後の改善方策

[ 学校関係者評価委員会の充実を図る。 ]

③特記事項

[ 法令順守について教職員には、職員総会で周知徹底を図っている。また学生には「学生心得」(学校要覧)を配布し、入学・進級ガイダンス、ホームルーム等で周知徹底を図っている。 ]

(10) 社会貢献に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
10-1)	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	4	3	2	1
10-2)	学生のボランティア活動に対する支援はどうか	4	3	2	1
10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

①課題

[ 学生のボランティア活動への支援の充実。 ]

②今後の改善方策

[ ボランティア活動に参加した学生への学業面を含めたサポートの仕組みをつくる。 ]

③特記事項

[ 今年度も渋谷音楽祭での地域支援活動、病院でのアート活動、地方公共団体のPR活動、熊本地震に対する募金活動、幼稚園などの壁画による美化活動等を行っている。 ]

(11) 国際交流に関すること

評価項目		適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
11-1)	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	2	1
11-2)	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
11-4)	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1

①課題

[ 卒業後国内で活躍をしている留学生は把握しているが、帰国をした留学生の活動状況を把握する。 ]

②今後の改善方策

[ 卒業後定期的に連絡を取る仕組みを作り、活動状況を把握し支援を行う。 ]

③特記事項

[ 留学生担当者2名を設置している。今後増やす方向。毎日出欠確認を行い健康管理も含めて確認をしている。 ]

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

### (1) 教育目標

企業と連携を取りながら時代のニーズに合った人材を輩出している。また、教育資源や施設を活用しての公開講座の開講や学生・教職員によるボランティア活動の積極的な支援を行った。卒業生とのネットワークを充実させ、活躍している卒業生を把握するようにしている。卒業生による特別講義や就職活動へのアドバイスなどの在校生に対する支援を行った。卒業生に対する支援として転職や再就職の斡旋などを充実させている。

### (2) 財務評価

平成27年度の学生募集は前年とほぼ同数であった。より広い市場に対しての募集を展開し学生増加に務めると共に経費を見直し、学校運営上支障なく運営できた。

### (3) 一般的評価

専門学校日本デザイナー学院は、クリエイティブ教育の専門学校として創立52年目を迎え、創立以来多くの卒業生達をグラフィック・マンガ・イラストなど産業界と生活文化に携わる有能なクリエイターとして輩出してきた。あわせて人間形成に努め、社会人としての自覚と責任を持たせるよう指導し、クリエイティブ業界のニーズに対応するために毎年カリキュラムの改良に努めている。

国際化を進める教育及び企業等と連携したカリキュラムの構築や東日本大震災・熊本地震に対する復興活動、病院でのアート活動、壁画制作による美化活動等も高く評価されている。また、学校の教育資源や施設を活用し、高等学校での特別授業や先生方を対象とした実技講習会、中学生の職場体験教育などを支援している。